

発災時に備え、県立高校で陸自部隊展開訓練と防災教育を実施

自衛隊静岡地方協力本部三島募集案内所（所長・林正士一等陸尉）は、12月17日（火）、静岡県立伊豆総合高等学校土肥分校（伊豆市）で行われた陸上自衛隊の部隊展開訓練に伴う防災教育に協力した。

これは、南海トラフ地震等発災時の活動拠点として県立高校を活用するための部隊展開訓練に併せて行ったもので、同校の生徒46人が参加した。

三島所は「危機管理の視点から災害・危機に備える」をテーマに講話を行った。海に面し、山に囲まれている土肥地区の地理的特性を踏まえ、防災マップを使って危険な場所を知ってもらうとともに、普段からの準備の重要性を伝えた。

また、陸上自衛隊第34普通科連隊第5中隊（御殿場市）が体験型実習として、AEDを使用した救急法、担架搬送、自衛官が背負っている背のう（リュック）の運搬体験を行った。特に担架は学校にも用意されている身近な道具であり、生徒たちは声をかけ合って熱心に体験に取り組んでいた。

屋外では軽装甲機動車、高機動車、小型トラックといった陸上自衛隊車両の見学を行い、希望者はグラウンドで車両に体験試乗した。学年を問わず自衛隊に興味を示す生徒もおり、自衛隊の装備品や仕事について理解を深めていた。

三島所は、引き続き担当地域の学校で防災教育を行い、防災意識の向上に貢献し、自衛隊の活動への理解促進を図っていく。



救急法体験



防災講話

令和6年度第2回予備自衛官補辞令書交付式等を実施

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・田代裕久一等陸佐）は12月20日（金）、本所庁舎（静岡市）において予備自衛官補辞令書交付式と制度説明、陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）において体験喫食と部隊資料館見学を行った。これは、新たに採用された予備自衛官補の意識高揚と、自衛隊に対する理解促進を図るとともに、教育訓練への不安を払拭する目的で実施しているもの。今回は4人が参加した。

辞令書交付式では、田代本部長が一人一人に辞令書を手渡し、採用された4人が予備自衛官補としての職務の宣誓を行った。

田代本部長は「それぞれの仕事の傍ら、予備自衛官補としての役割を担うという意義ある決断に心から感謝する。予備自衛官の歴史は長く、特に東日本大震災以降、その重要性はますます高まっている。教育を実施する部隊は豊富なノウハウと経験があり安心して訓練を受け、そして自らのものにしてほしい。普段の健康管理に十分に留意し、立派な予備自衛官として活躍してほしい」と訓示した。

また、予備自衛官班長が予備自衛官補制度について説明し、参加者は今後自分が受ける教育訓練の内容について熱心に聞き入っていた。

その後、場所を陸上自衛隊板妻駐屯地に移し、隊員食堂で昼食を体験喫食した。参加者からは「バランスよくポリウムのある食事で、おいしかった」との声が聞かれ、好評だった。

資料館見学では、駐屯地広報担当者から部隊や駐屯地の歴史などについて説明を聞き、質問をしながら理解を深めていた。

研修を終えた参加者は「今日一日を通して予備自衛官補としての意識が高まりました。教育訓練を修了して予備自衛官となり、いざという時に貢献したい」と意欲を語った。

静岡地本は、今後も予備自衛官等の確保と練度維持に努め、静岡県民のために職務を遂行していく。



資料館見学



辞令書交付式